

矢部高校の「良さがみんなにわかる取り組み」と「良さを増やす取り組み」について

矢部高等学校長 月井雅晴

平成26年11月25日の熊本日日新聞の読者のひろばに「町の将来担う矢部高の存続」という意見がありましたが、矢部高校の職員を代表してお礼を申し上げます。とても心強く思いました。ありがとうございます。せっかくだから、この機会に本校の「良さがみんなにわかる取り組み」と「良さを増やす取り組み」について御説明します。

「良さがみんなにわかる取り組み」は2種類あります。

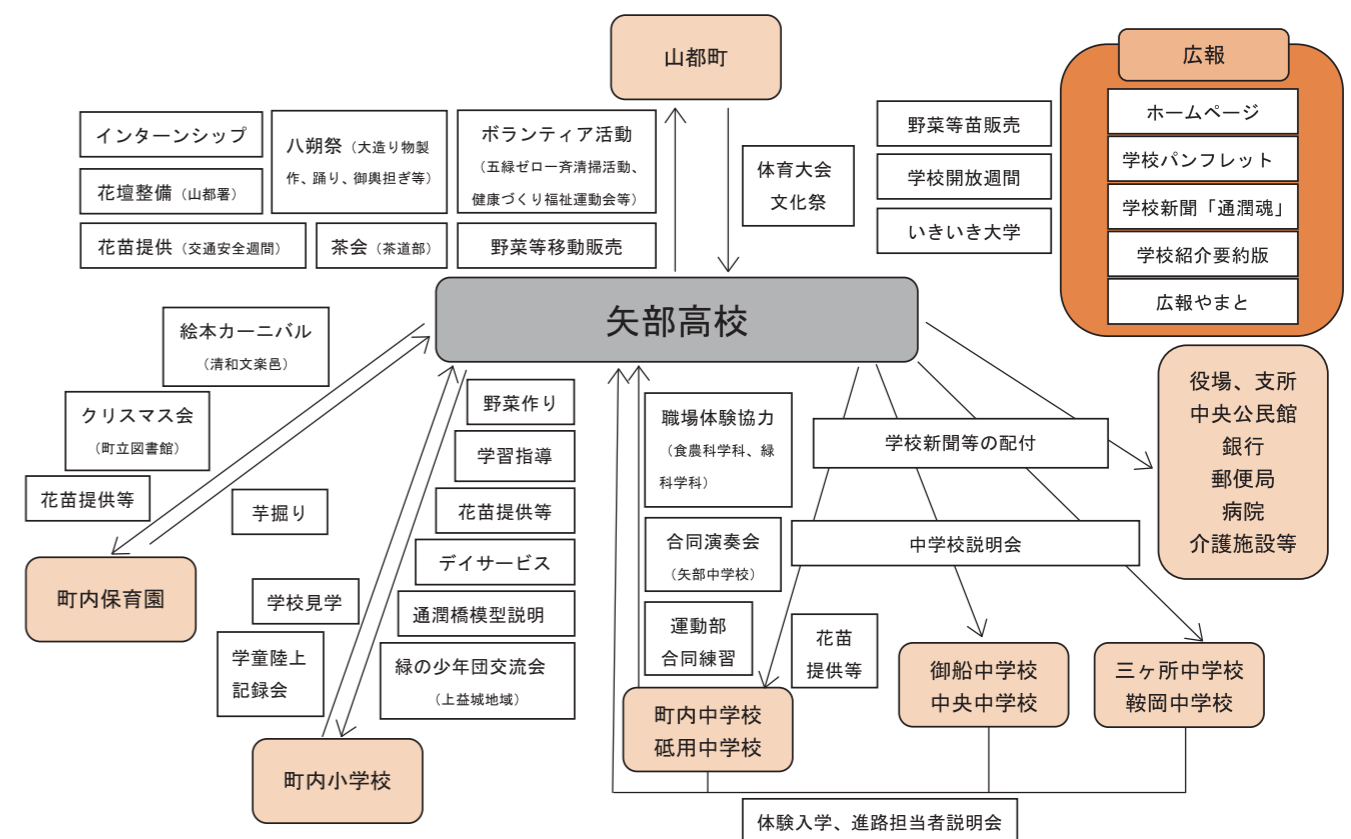
まず、広報です。学校新聞「通潤魂」は、町立中学校等の生徒と職員の皆さんへの配付及び山都町内回覧等に加え、パンフレットも併せて今年度から町内の銀行や病院等に配置しています。ホームページについては、多くの職員で生徒の日々の活動をほぼ毎日掲載しています。山都町の広報誌「広報やまと」にも、ほぼ毎月、本校関連記事を発表していただいています。

次に、より多くの人に実際に本校を見に来ていただくための取り組みです。夏休みの中学3年生の体験入学に加えて、今年度から、小学生の社会科見学の受け入れや、地元の農家の方や森林組合と分担した中学2年生の職場体験の受け入れを行い、また、保護者に限定していた学校開放週間の案内対象を小中学校長等に拡大しました。特に、今年度は町の御協力があり、本校文化祭と並行して校内で開催の健康フェスタ及び本校生と役員職員とで町の将来を考える劇の発表等により、多くの方に壁新聞や合唱コンクール等の生徒の作品や活動を観覧していただきました。

「良さを増やす取り組み」については1つ御紹介します。緑(みどり)科学科は、これまでも、八朔祭の大造り物の製作や和紙「浜町紙」の復元等で町に貢献してきましたが、3年生の課題研究の一環として、今年度は町内にある3つの道の駅にちなんだ特産品を、地元の杉材等で製作するプロジェクトに取り組んでいます。まず、6月から、通潤橋模型「かけはし」の製作を始めました。盲学校や町内小学校等を中心に200個近く販売してきました。次に、端材と清和文楽のマーク(男女面)を使用したパズル「清和文楽」の販売に向けて、現在、試作を繰り返しています。また、道の駅にちなんだ特産品以外にも、県産材アピールのため、端材を活用した「かどっこのくまモン」の製作を始め、毎月20個ずつですが、昨年12月26日午後2時に熊本市のくまモンスクエア(<http://www.kumamon-sq.jp/>)で販売を開始しました。3時間ですべて売れました。

以上、「良さがみんなにわかる取り組み」と「良さを増やす取り組み」を両輪に、職員一同、頑張ってますので、今後とも本校への応援をよろしくお願いいたします。

矢部高等学校と山都町等との関わり



自然の中で豊かな育の子どもたち その61

矢部郷自然観察会 代表 藤吉 勇治



今回の「棚田の生きもの観察会」は、「子どもゆめ基金」の助成を受けて企画することができた。この助成により必要な観察用具を揃え、観察の準備を整えながら観察会当日を待った。

観察会の実施2週間前、台風18号が九州に接近した。山都町においては特に被害もなく、安心した矢先に台風19号が発生した。報道によれば、今年最強の台風と発表され、それからの1週間は、台風の進路を毎日確認しながら心配な日々を過ごすことになった。

観察会実施日の2日前には、台風19号は沖縄付近を北上しており、熊本まではかなりの距離があったが、山都町ではすでに風が吹き始めた。

さらに、観察会前日は、風に加えて時折雨も降り、当日の観察会は午前中だけの実施に変更した。ただし、風雨が強くなれば実施も危ぶまれた。夜中に何度も台風情報を確認しながら、観察会当日を迎えた。

10月12日観察会当日。明け方は弱いなながらも雨混じりの風が吹いていた。

もしかしたら田んぼでの観察活動が得意な田んぼの生きもの観察会は、田んぼの生きもの観察会は、「子どもゆめ基金」の助成を受けて企画することができた。この助成により必要な観察用具を揃え、観察の準備を整えながら観察会当日を待った。



息子のしゅうま君は「田んぼに行くと、生きものを採りたいな。」と、ワクワクしていた。

その願いが天に届いたのだろうか、なんと集合時間には雨も風も止んだのだ。 (次号に続く)

山都警察署・署協議会だより TEL72-0110

注意！漫然運転による交通事故！！

昨年中、山都町内において、14件の重傷事故(加療1ヶ月以上)が発生し、その内の大部分が、居眠りや前方不注視、脇見などのいわゆる「運転手の注意力散漫が原因の交通事故」でした。

中には、一歩間違えば死亡事故、現に当事者が脳挫傷や骨盤骨折等の重大な怪我を負われた事故も発生しています。

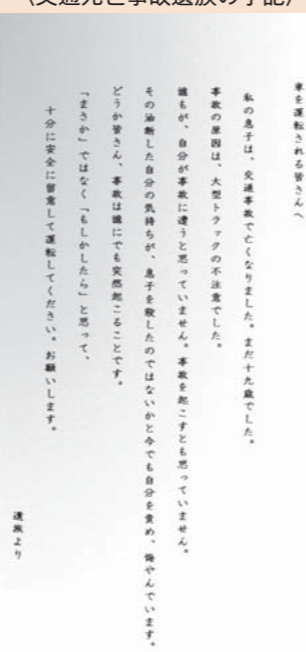
この種の事故は、昼間・夜間を問わず、また、誰もが起こす可能性のある事故ですが、意識と心がけひとつで、防止することが可能です。

この種の事故を防ぐために

- 少しでも眠気や疲れを感じたら休憩すること。
～そのために時間にゆとりのある運転を!!
- 食後や暖かい日は特に注意すること。(居眠り運転の防止)
- 緊張感・危機感を持つこと。
車両は、「凶器」であり、人命を奪う可能性と危険性があることを常に意識すること。
- あなたの運転で、大切な人命を奪うこともあるのです。
- 「車は出てこないだろう。」ではなく、「車や人が飛び出てくるかもしれない。」という「～かもしれない運転」を心がけること。

併せて
○全席シートベルトの装着
○チャイルドシートの適正な利用
○速度を控えた運転
等の基本を守り、山都町で悲惨な交通事故が発生しないようお互いが注意しましょう。

〈交通死亡事故遺族の手記〉



事件・事故	平成26年中
刑法犯	44件(37件)
人身交通事故	41件(42件)

()内は平成25年中の発生状況